

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの夕ネまき 新聞 No. 641

〈100分の1秒〉

今年の夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が一年延期で開催されました。

コロナ禍での開催となり、無観客で行われたため通常とは違う状況となりましたが、数多くの競技が一斉に行われるのはオリンピック・パラリンピックの醍醐味です。私自身もスポーツ観戦が好きなので、種目に関係なく多くの競技をテレビ観戦しました。

団体戦、個人戦、それぞれ競技ルールの違いによって勝敗の行方が決まります。どの競技を観ても各国の選手が5年間の集大成として、メダル獲得に向けて頑張っている姿に感動しました。

なかでも、水泳や陸上の短距離競技では100分の1秒差で順位が決まるシーンがあり、その差を縮めるために選手は日夜努力されているのだと思うと、改めて胸に迫るものがありました。

ほんのわずかな差であっても、日々研鑽を積み重ねたことが成果となって表れるのは、私たちの日常生活でも見習うところがあると感じます。

誰もが与えられた時間は同じで、同じスピードで時間は過ぎていきます。時間を大切に、何事にも「100分の1秒だけでも成長しよう」と努力することが、人生を豊かにしていく一つの方法だと学びました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

※イラストはイメージです



鹿児島県 垂水千本イチョウ園

園主ご夫妻が長い歳月をかけて私有地を開墾した、約1200本のイチョウが並ぶ黄金の楽園。



坊津の輝津館展望台から見える「双剣石」は浮世絵師・歌川広重も描いた



唐カラ船祭りの様子。個性豊かなガラガラ船を引いて浜を走る姿は坊津の風物詩



船体と柱、車輪などの部材に色付けして組み立てていく織田さん



昔は男の子の父親や祖父が作ったり、近くの船大工などに作ってもらったりしていたという



健やかな成長を祝い
親から子へと贈られる

ガラガラ船

家の数だけ形がある
船形の郷土玩具

日本の最西南端・鹿児島県南さつま市にある坊津は、東シナ海を行き交う船舶の寄港地として栄えた港町です。この町に伝わる船形の郷土玩具が「ガラガラ船」。そのユニークな名は、子どもたちが引く際にガラガラと音が鳴ることから名付けられたと言われています。

坊津では、古くから端午の節句祝いにガラガラ船が男の子に贈られてきました。端午の節句には鯉のぼりが一般的ですが、港町である坊津では暮らし

坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会の会長・谷川茂洋さん。同じく保存会の織田聖さんは「最近では作れる人が少ないので、作ってほしいと頼まれるんだけど、西陣織、金糸を使った帆がいいと言われるね。やっぱり親心だね」とにこやかに話してくれました。

また、家ごとに伝わる船体のデザインがあり、作り手の個性や工夫が見られるのもガラガラ船の魅力。「作り方も材料も人によって違う。うちは桐ダンスなどの廃材を使ってるよ」と話しながら、織田さんは手際よく木材を削ったり、色を塗ったりと作業の様子を見せてくれました。

海辺に響き渡る 子どもたちの歓声

色とりどりのガラガラ船が勢揃いするのが、毎年5月5日に泊地区で行われる「唐カラ船祭り」です。新聞紙で作った兜をかぶった浴衣姿の男の子たちが、ガラガラ船を引きながら九玉神社まで練り歩き、神事の後は浜辺で一斉にレースを行います。自分の背丈ほどのガラガラ船を引きながら走る姿は愛らしく、地元住民だけでなく県外からも多くの人が見に訪れるのだそう。

お祭りだけでなく、保存会では大切な郷土文化を伝えていくために中学生向けのガラガラ船講座や、親御さんに作り方を教える活動も行っています。近年では、子どものためだけでなく、還暦祝いや引越し祝いなどに贈



船の形は、昔の木造船をモチーフにしている

において重要で身近な存在だった「船」の形をした玩具が伝えられてきたそうです。

ガラガラ船は全長60センチほどで、昔の木造船をモチーフとしています。船体に4つの車輪が付けれられ、先端には大漁を祝う船首飾り、華やかな帆に、帆綱にはサイノコと呼ばれる水夫をかたどった人形が吊るされています。

「昔は各家庭で父親や祖父が船体を、母親や祖母が帆やサイノコを作っていました。帆には、子どもの晴れ着やお母さんの着物の古着を使うことが多く、今よりもっと素朴だったようです」と教えてくれたのは、

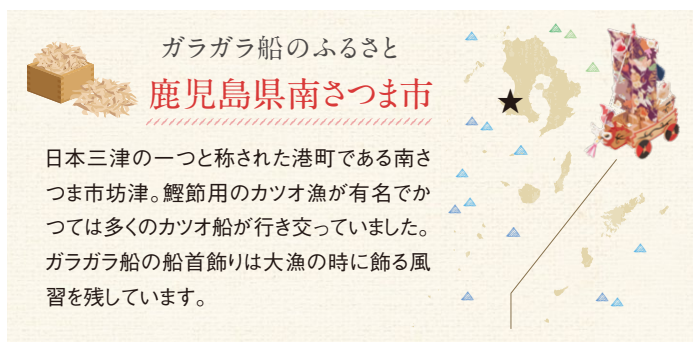


サイノコは丸い頭のパーツを抱っこするように縫い付けるのが特徴

られることも多く、お土産用の小さなサイズも作られるなど、ガラガラ船は坊津のシンボルとして親しまれているのです。

「昔は端午の節句の時期だけでなく、浜辺でガラガラ船を引いてよく遊んでいました。この文化を絶やすことなく、伝えていきたいですね」と谷川さんは語ります。

子どもたちがすくすくと育つようにという思いを込めて作られてきたガラガラ船。きつと未来でも、美しい坊津の浜辺には子どもたちの声とともに「ガラガラ」と元気な音が響き渡っていることでしょう。



ガラガラ船のふるさと 鹿児島県南さつま市

日本三津の一つと称された港町である南さつま市坊津。鯉節用のカツオ漁が有名でかつては多くのカツオ船が行き交っていました。ガラガラ船の船首飾りは大漁の時に飾る風習を残しています。

台所の相談室

少しずつ冷たい風が吹きはじめ、秋から冬へと移ろいを感じる今日この頃。温かい献立がうれしいこの時期にぴったりなレシピを教えてくださいました。

FILE 24

野菜の旨みがぎゅっとつまった、温かい一品はいかがでしょう。

野菜をたっぷり取る料理は断然スープがおすすめ。お鍋いっぱい野菜をつめ込んでも加熱するとぐんとかさが減りますから、一皿でかなりの野菜を食べられます。

コツは野菜から出る水分をうまく利用して、しっかり火を通すこと。野菜本来の旨みが出てきます。まずは野菜と塩、オイルだけを入れて蒸し煮に。塩は味付けというより、野菜の旨みを引き出すためにほんの少し入れます。最初から出汁やスープで煮る方法もありますが、旨みを引き出してからの方が味が良いです。

使う野菜の決まりは特になく、冷蔵庫にある余り物を片付けるイメージで作ると、気持ちも楽ではないでしょうか。ただ、ごろみを付けたいなら、じゃがいも、かぼちゃ、里芋、さつまいも、長芋など、ごろみの出る野菜を1つ入れたり、



加えてごろみを付けます。レシピは牛乳を使っていますが、出汁や豆乳で野菜のペーストを伸ばしてもいいです。野菜ペーストの状態で冷蔵庫で保存も出来ますので、スープだけでなく、ソースやリゾット、パスタにも応用が利きます。寒さが本格的にやってくる季節になりました。スープで体を温めてはいかがでしょう。

ひだかずを
飛田和緒さん

料理家。1964年、東京都生まれ。独自のアイデアレシピが人気。新刊の『くったり、しっとり、クタクタと。野菜はやわらかく煮るほどおいしい』（グラフィック社）をはじめ、著書多数。



今回の悩み

野菜は1日に350g以上取るのが理想的と言われていますが、現実的にはなかなか難しく、副菜を何品も作るのは大変です。一度でたくさんの野菜が食べられるとっておきの一皿を教えてください。（大阪府・女性）



野菜たっぷり

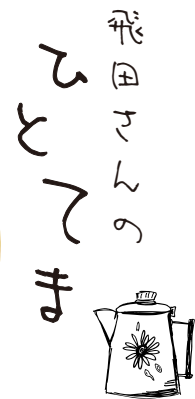
ポタージュ

- 【作り方】
- 野菜を2〜3cm角くらいの大きさに切る。きのこは煮ても潰れないので、最初から細かく切る。
 - 鍋にオリーブオイルと野菜を入れ、弱めの中火にかけて、軽く炒める。塩をひとつまみふり、ふたをして10分蒸し煮にする。
 - 一度混ぜて、さらに5分ほど蒸し煮にする。水気が出てきたら火を止め、粗熱を取り、マッシャーなどで潰してペースト状にする。
 - 鍋に戻して牛乳を加えながら弱火で温め、塩で味を調える。器に盛り付け、好みでオリーブオイルを垂らす。
- ※野菜によって水分が出ない場合は、様子をみて50〜100mlの水を加えて蒸し煮にする
※③のペーストは冷蔵庫で2〜3日保存可能

- 【材料(2人分)】
- お好みの野菜……計600gくらい
オリーブオイル……………大さじ1
塩……………適量
牛乳……………300〜400ml
(お好みで調整を)
- ※写真のスープは、玉ネギ、パプリカ、トマト、かぼちゃ、人参、エリンギ、長芋を使用



Answer Recipe



なめらかに仕上げたいときはミキサーにかけて。手間はかかりますが、目の細かいザルなどでこすとさらになめらかになります。マッシャーや、すり鉢、フォークの背で潰してみると、それぞれ舌触りも違い、おいしさも変わってきます。

ポタージュにするひと手間でごちそうに変わりますので、家にある道具で作ってみてください。

台所のお悩み事をお寄せください。

お料理について気になることや、ちょっとしたお悩みを、飛田さんに相談してみませんか？
お便りをお待ちしています。
宛先は裏表紙をご覧ください。



ほほえみのひろば



7歳が贈るギフト

群馬県甘楽郡 新井むつみさん

私がお手伝いをしている学童保育では、小学1年生の女の子たちが、七五三のために髪を伸ばしていました。

11月に入り、七五三を終えて髪をかなり短く切ってきた一人の子が「切った髪でかつらを作るんだよ」と、かつらを必要としている子どもたちのために、髪を寄付するヘアドネーションをしたと話してくれました。

見知らぬ誰かのために自分の髪をギフトとして贈るなんて、とても素晴らしいことだなと思いました。



成長の証でもある長い髪を七五三の節目で贈るなんて、素晴らしい行いですね。

サービスの食パン

愛知県名古屋市長 石田亜希さん

「コーヒー豆」を買いに、近所のカフェに行った帰り道のこと。店を出て自転車をこぎ出すと、誰かに呼ばれたような気がしましたが、勘違いだと思い、再びこぎ出しました。それでも声が聞こえてくるので振り返ると、カフェの店員さんがこちらへ向かって走ってきており、「コーヒー豆を買った方へのサービスのパンを渡し忘れてしまったて・・・」と、おいしそうな食パンを一斤手渡してくれました。



なんて素敵な店員さん。優しさが詰まった食パンは、一層おいしく感じそうです。

思い出のスカーフ

青森県弘前市 中山和子さん

亡き夫との旅行の思い出に購入したスカーフを、息子のお嫁さんに譲ることに。すると後日、「セールで購入したバッグがゴージャスになり、職場の人に見せびらかしています」と書かれたメールとともに、スカーフがバッグの取っ手にさりげなく結ばれた写真が届きました。身に着けるものだとばかり思っていたスカーフが、とても可愛くおしゃれに活用されていました。

夫との思い出のスカーフをまた使うのもうことができて、とてもうれしかったです。



思い出のスカーフがお嫁さんに受け継がれていることを、ご主人も喜ばれているでしょうね。

【燈々無尽】

信頼される人になれ

人間として大事なことは、
信頼をされるような人物になることであり、
またひとたび信頼を得たならば、
それにふさわしいだけの
行ないを以て
信頼にこたえるべきだと思います。
それこそ、生きがい、
働きがいのある
人生ではないでしょうか？

ダスキン創業者 鈴木清一

今の私に出来ることを

大阪府守口市 上田成子さん

コロナ禍の影響で、大好きな太極拳もできなくなり、友人や孫とも会えず、ひたすら自粛する毎日です。

せめてメールでコミュニケーションをとろうと、美しい風景や動物の面白い動画を友人に送ると、「うれしい」との声をもらえました。

友人と挨拶を交わしたり、励ましたりすることはメールでも出来ます。今の私大切な人たちに出来ることを、これからも続けていきたいと思っています。



温かいメールや楽しい動画を、ご友人も楽しみにされているはず。離れていても心はつながれますね。

頭を使って

島根県浜田市 小川ひとみさん

長男がまだ幼稚園生だったころ、テレビの前に座り「チャンネルを変えて」と私に甘えて言ってきました。当時はリモコンではなく、テレビに付いているつまみを回してチャンネルを変える時代。「頭を使って自分でやってごらん」と伝えると、なんとつまみに自分の頭を押し当て始めたのです。これには私も大笑い。

その長男も今では50歳。最近では私が「ぼうつとしないように頭を使わないといけないよ」と言われるようになりました。時の流れは早いものだなと思わされます。



ユニークで可愛い行動！何年経っても忘れられませんね。

骨折中の心遣い

愛媛県伊予市 中村壽子さん

先日バイクで転倒し、左肩を骨折する全治2カ月の怪我を負ってしまいました。そんな私を気遣って、少し離れたところに住む96歳のおばあさんが、「腕が不自由だからすぐに食べられるように」と、私の大好きな茄子のからし漬けを持ってきてくれたのです。ありがたくて、涙がこぼれました。近所の友人たちもゴミ出しや買い物を手伝ってくれて、優しさと思いやりをたくさん感じる事が出来ました。

この恩を忘れず、私も思いやりの心で人に接していきたいです。



周囲の方々の優しいサポートに心が温まりますね。お体お大事になさってください。

愛の輪通信

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業
第38期個人研修生 大下 歩さん
(視覚障がい・日本ライthouse情報文化センター勤務)



点字での解説表示に
エコツーリズム大国の姿勢と
意気込みを感じました。

コスタリカにあるマヌエル・アントニオ国立公園は、ジャングルと海とが共存する場所です。そのハイキングコースにあった看板が忘れられません。公園内で見られる生き物の解説が、スペイン語の普通文字と点字、英語の普通文字と点字で書かれていたのです。その横には、視覚障がい者が触って形を知るために、ヤシの木のレプリカも置いてありました。

世界中から人が訪れる、エコツーリズム大国コスタリカ。「情報を平等に届けるぞ」という意気込みを感じました。



愛の輪は、日本とアジア太平洋の地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについては
ダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270





読者の皆様から送りいただいた
素敵な1枚をご紹介します。

みてもらおう!



可愛いお洋服でおめかし
静岡県島田市 菅沼 久枝さん



2人のひ孫が誕生!
宮城県仙台市 小野寺 ふみ子さん



姉弟で仲良く記念撮影
広島県東広島市 土井 清美さん



晴れ姿でとびきりポーズ!
福井県三方上中郡 内藤 茜奈さん



兄弟姉妹揃って七五三
宮崎県延岡市 酒井 梢さん



遠くに望める伊豆大島
神奈川県横須賀市 藤井 千里さん

あなたの
お便りや写真を
お寄せください。

あなたが体験したうれしかったことや、
誰かに聞いてもらいたいことなど、
身近な話題をお寄せください。
心よりお待ちしております。

送り先
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページで紹介させていただいた原稿や写真には、ささやかなお礼品をお送り致します。
- 作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

• 本号は、2021年9月に制作したものです。状況によって記載内容が変更となる場合がございます。

No.419からのバックナンバーが下記の
アドレスからご覧になれます。
<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



引越しのおそうじにはダスキンモップが便利!
引越しのお手続きは、担当店・Webページ
ダスキンコンタクトセンター **0120-100100** まで



株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキン コンタクトセンターまでご連絡ください。

0120-100100 www.duskin.co.jp

60-9C 2021.11 3373400